



千代田まちづくり

サポート通信

2002年2月発行

No.7

初参加組も交じえて8団体に助成金

第4回千代田まちづくりサポート公開審査会

まち起こしにつなげたい
研究・調査に熱い思い



第4回千代田まちづくりサポート公開審査会が昨年10月27日、神田さくら館で行われた。財団法人千代田区街づくり推進公社の事業で、応募した12団体が、これから取り組みたい活動を発表した。市民レベルで、いっそう魅力あるまちづくりを目指して活動していこうというグループばかりで、審査員の鋭い質問にも答え、人とまちをつなげたいという熱意を示した。審査の結果、8団体が20万円から50万円の助成金を受けることになった。

3回連続の応募で、助成金が受けられる最後の年とあって、これまでに調査した内容を克明に展示したり、解説した「番町まちづくり文学館」や「花咲かじいさん」は、決定された助成金の限度額50万円を生

かして、活動をレベルアップする。応募2年目の4団体のうち2団体は、課題に対する具体的な活動に絞り込みが必要と助成対象から外され、厳しい審査の一面が見られた。また初参加組の6団体のうち4団体に助成が決定した。

公共空間、蕎麦屋、電気街などテーマはさまざま。舞台の特徴を掘り起こしてまち起こしにつなげたいと、どの団体も熱意が高かった。中には子どもたちに次代のまちづくりのきっかけにしてほしい、と願うグループもあった。助成金を受けた8団体は、この秋に成果を発表する。

【審査員＝敬称略】

- ◆卯月盛夫／会長・早稲田大学教授
- ◆北沢猛／副会長・東京大学助教授
- ◆平岩千代子／電通総研副主任研究員
NPO理事
- ◆森まゆみ／作家・地域誌編集人
- ◆伊東敏雄／賛助会員
- ◆田畑秀二／江都天下祭研究会
神田倶楽部会長
(まちづくりサポートOB)
- ◆渡辺滋／千代田区都市整備部長



鋭い質問にも答えて…

目次

(ページ)

【応募団体】

- ◎番町まちづくり文学館 (2)
- ◎花咲かじいさん (2)
- ◎東京ロードランナーズ・クラブ (2)
- ◎江戸神田蕎麦の会 (2)
- ◎千代田活性化アート活動研究会 (3)

(旧神田SOBART実行委員会)

- ◎みんなの居場所提案会 (3)
- ◎神田を出版する会 (3)
- ◎ (NPO) 学習環境デザイン工房 (4)
- ◎秋葉屋ドットコム (4)
- ◎花・風の会 (4)
- ◎子どもと一緒にデザインしよう会 (4)
- ◎まつりと自治研究会 (5)

【質疑応答・討議】 (5～6)

【審査表(評価・助成金申請額・決定額)】 (6)

【総評・審査員講評】 (6～8)

番町まちづくり文学館 (3回目)

おかげさまで、2000年10月に「番町文芸地図」の六番町編ができ、翌年10月には、その二番町、四番町、五番町編を発行した。今回は、一番町・三番町編と、さらに旧番町地区に隣接の麹町地区も合わせて番町・麹町地区編を制作し、3部作を完成させたい。

鎌倉の「鎌倉文学館」には、番町にも共通のゆかりの文士たちがおり、里見弴、古屋信子などの鎌倉の居住跡が保存され、立派な顕彰プレートがある。文化と

教育のまちを標榜する千代田区でもぜひ実現したい。最終的には文学館の設立に向けて挑戦していきたいと考えている。

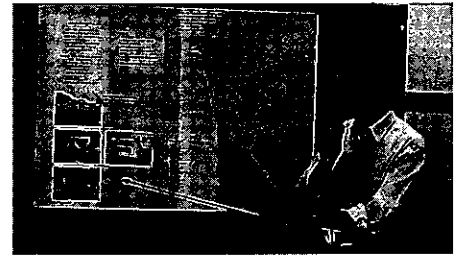
◇

Q・今回の活動の具体的な動きは？

A・まず千代田区にアピールしたい。現実にはこれだけの人物がおられた跡があるので、文学館の可能性もあると思う。

Q・最終報告書やホームページは？

A・まちネットの協力を得て、Webサイト化し、最終報告書は「番町文芸地



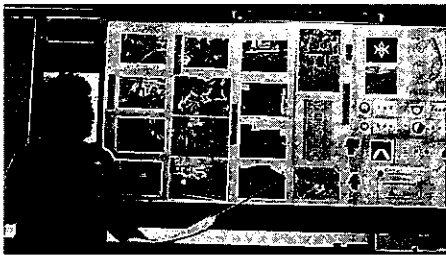
図」に関連した総集編をつくる予定。

Q・「鎌倉文学館」は市営だが、市民活動として、その運営については？

A・きっかけをつくるのが任で、実際に動きだせば運営は区にお任せする。

花咲かじいさん (3回目)

花の好きな個人の活動から出発した会が貴重なサポートの資金を頂き、諸先生のご指導を受けて、まちづくりの活性化へと活動の花を咲かせることができた。



まず 150個の花鉢を早稲田通りに設置し、必要な土は富士見小学校の理科園にあった土を子どもたちやPTAと共に再生させた。地域との交流も生まれて水やりには里親制度をつくった。

花鉢が縁で子どもたちといっしょにまちづくりをしていきたいという方向になり、まず通学路にある国指定の牛込門をきれいにしたいと考えている。

今後、道府県の文様入り花鉢に県花を育てて、通りや町並みに飾りたい。千代

◇

Q・各県に花鉢を提供してもらおう計画なのか？

A・できればそうしてもらいたい。

Q・活動の中心は早稲田通りなのか？

A・他に大妻通りも街路樹の根元に花を植えた。

Q・花の種類はいろいろ考えているか？桐の木などは大きくなるがどうか。

A・目下は花を中心に、皆さんのお知恵を借りながら工夫していきたい。

東京ロードランナーズ・クラブ (2回目)

前回は残念ながら審査にパスしなかったもので、今回は2つの要素を加えた。1つはアートで、2つ目はウォーキング。現に多数の老若男女が多様なファッションで町並みに溶け込み、四季折々の皇居周回コースを楽しんでいる。

何時でも誰でも手軽に肉体と精神をリフレッシュできるRUN&WALKを都市空間のアートとして広め、より魅力的な千代田の状況をつくりたい。

そのために、メニューを4つ用意したが、そのうちの2つは活動を開始している。1つは、第2回東京シティマラソン



を3月17日に予定。健康者も障害者も参加して皇居周回コースを走る。

次は4月に第1回千代田桜祭り・RUN&WALK。実は昨年、シドニーで開催したので、ぜひ今年は日本で、この千代田区でやりたいと考えている。3つ目

◇

Q・イベントばかりのようだが、まちづくりとして日常的な活動は予定していないのか？

A・サポーターズクラブと協力して、SOBARTなどの支援や普及を手伝っていききたい。

Q・イベントなどを通して、まちづくりへの提案もぜひしてほしい。

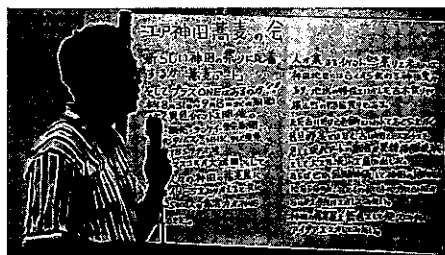
A・都市政策として歩道インフラの整備や安全な周回コースを広めることなどを今後も提案していくつもりだ。

江戸神田蕎麦の会 (2回目)

先生方の助言で蕎麦屋と現代アートをドッキングさせた蕎麦アート(SOBART)を開催した。1+1=2以上に、以下にもなることを体験した。

マスコミにも多く取り上げられ、4000~5000人もの参加もあった。今後、これを新しい神田のイベント=祭りとして、いかに完璧なものにしていくかが課題だと思う。他の団体とジョイントして、

蕎麦アート+1の可能性を検討中だ。蕎麦屋という神田の古い店をまち起こしの



◇

Q・マスコミよりも、住民にどう働きかけるかがまちづくり活動だと思うが。

A・千代田区教養講座の手打ち蕎麦教室は、区立小学校の子どもたちを対象に開く予定で準備している。

千代田活性化アート活動研究会 (2回目) (旧神田SOBART実行委員会)

名前は変わっても、アートをツールとしてまちを活性化していくという活動の根本的な目的は変わらない。研究会としては、まちとアート、アーティストのより親密な交流を促し、東京の中心にあるオアシスのような千代田区にしたい。

またNY市やロンドンの倉庫街をアトリエにしてアーティストたちが住みつき、まちが活気づいた例などを参考に、実現可能なことを探っていく。

SOBARTの継続については、初心に戻って、まちづくりとは何か、なぜSOBARTなのかを検討した上で考えて

いく。今年は、SOBARTの可能性も考慮しつつ地元の方々とネットワークづくりと、まちづくりとしてアートに何ができるかの研究、この2本に絞る。



具体的には街角ギャラリーを考えている。SOBARTの時、猿樂町の町会詰所で発表していた作家が市民と対話する場面があった。そういう拠点を区内に探して街角ギャラリーを運営し、そこを国際交流の場にすることも考えている。

◇

Q・今年度はどの辺までやるのか？

A・企業の建物で空いている場所を街角ギャラリーとして一定期間借りることも可能ではないかと思っている。街角ギャラリーでは、作品の発表だけでなく、住民との交流会を開く。そこから人々の願いや考えをくみ取りたい。

みんなの居場所提案会 (2回目)

私たちは人が集える共有の小スペースから、個人がゆっくりできる快適な場所までを居場所としてとらえ、住民・在勤者・学生の三者参加形で提案、実現する



ことを目的とする。学生や在勤者が地域に関わる方法と場を新しく考えることも「居場所づくり」の一つとする。

具体的な居場所として、1年目には貸し農園を考え、千代田区にコンテナを活用した仮設の畑を提案したが実現できなかった。今回は、区内の小学校、特に富士見小学校に話を聞いてもらった。今後、企画づくりに取り組みたい。

同小学校では、小さなプランターでトマトを育てている。私たちはコンテナの畑を設置してもらい、1年か半年で移動させながら、学校開放活動などと共に、

少しずつ広めていきたいと思う。

また、駿河台地域の学生の居場所についての調査、たとえばどこで昼食をとるのかなど7項目のアンケートをとる。在勤者の方にはホームページを作成して、書き込み形式の回答で調査したい。

◇

Q・企画書にあるワークショップとは、いつ、どんなことをやるのか？

A・取り壊しをする新宿区の小学校からいただいた黒板や椅子の再利用で3月と7月にストリートファニチャーをつくる予定。

Q・コンテナ農園と、それに関わる人が増えることのどちらが目標なのか？

A・関わる人が増えて広がることです。

神田を出版する会 (初)

1年かけて、単行本を出版する。タイトルが『東京神田』、A5判 128ページ、東京神田を丸ごと紹介する情報発信誌だ。写真やイラストをたくさん使い、見やすく楽しい本にする。バッグに入れて持ち運びやすい大きさは重宝するはずだと思う。

編集方針は、住民や働いている人、来街者に情報を提供すること。これまでにない視点の本になる。読む人に神田の魅力を知って、愛着を持ってもらうため、神田に住みたい、通いたい、楽しみたいという人を増やしていきたい。

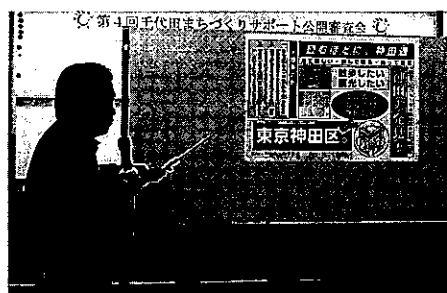
内容は神田大発見、出版文化のルーツ、現神保町から始まった書店や古本屋街、印刷、製本、出版社の文化的な流れを探

っていく。それから、劇場や美術館、博物館、路地裏の魅力も紹介する。世界遺産ならぬ神田遺産として、歴史的建造物なども発見していきたい。

また地元の人がお勧めのホテル、レストラン、カフェなどを紹介する。

◇

Q・既成の本と違う視点からつくと



いうが住民の意見をどう集めるのか？

A・1年でやることなので、自分たちが得た情報で出すのが精一杯かと思う。

Q・取材のネットワークをもっと広げていかないと全体が見えてこないのでは？本を創るのは、そのプロセスが大事で神田の魅力を発信したいなら、そういう人たちをまず集めること。そこに市民参加の意味があると思うが。

A・まずこの本を出して、呼びかけたい。そうでないと集まらないと思う。

Q・まちづくりとは住民の側から、相互のコミュニケーションで情報が流れることだ。その横のつながりをどうつくるかが大事。時間がないからメンバー4人で出すというのはどうかと思うが。

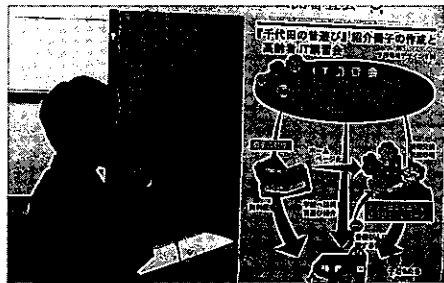
A・インターネットのメールなどで呼びかけるのか。できれば、ぜひ教えを受けてやりたい。

(NPO) 学習環境デザイン工房(初)

私どもは3年間、過疎地小規模校の支援と子ども向けのワークショップをしてきた。それを千代田区のまちづくりにも活かしたい。地域住民との交流を深め、「千代田の昔遊び」の紹介冊子の作成を、高齢者向けのIT講習会でやる。遊びの体験を活かした創造的な作品づくりで、内容のある楽しい会になる。

そこからさらに3つの展開を考えている。地域交流の場として、1)冊子を地元の小学校に無料配付し、社会科の授業で活用してもらう。2)ネット・コミュニテ

ィとして冊子の内容をホームページにのせ、電子掲示板として、子どもたちにもアクセスしてもらう。3)できれば学校を訪問して直接、昔遊びを伝える。



◇

Q・昔遊びを知っている高齢者は千代田区には少ないので、区外へ出られた郊外の方たちも対象にしてやってほしい。多摩ニュータウンでも小学校と何度もメールの交換をしている(「多摩遊び」)ので、参考にしてはどうか。

Q・子どもたちと直接関わるのが大切だと思う。その実現にやり方を熟慮すべきではないか。また、スケジュールに無理はないか、費用の有効な使い道も再考すべきではないかと思う。

A・アドバイスを参考にして、がんばりたい。

秋葉屋ドットコム(初)

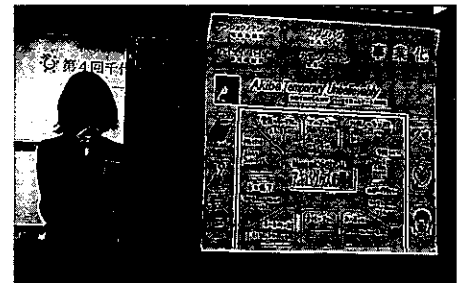
秋葉原で発掘した廃材を使って秋葉グッズを開発し、それを展示するアート企画展を開く。家電に混じって電飾など様々なものがある秋葉原は電気を巡るミュージアムだと思う。コンピュータ、ラジオ、電飾関連の廃材はアートの素材になる。学生やデザイナーの卵たちと考えて実現したい。

1)「廃材の配剤」として、文具や花瓶、リビンググッズ、小物雑貨。2)「電飾の転載」として、発光ダイオード、IC回

路の部品や電線をつかったアクセサリや服飾小物。普段は家電のなかに影を潜めているパーツが、リボン電線のバッグとか信じられないような小物に変身する。できれば事業化し、世界の家電エキパのイメージがアートを加えることで広がり、観光の秋葉原のイメージアップにも貢献できればと考えている。

◇

Q・アイディアは面白いが、まちづくりの市民活動より、工業デザインの世界

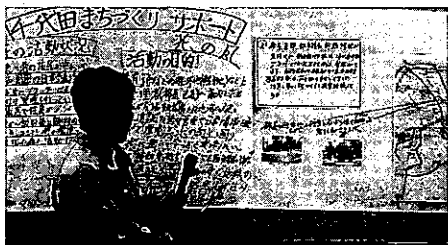


になるかと思う。廃材の利用を事業化することの意義と秋葉原のアイデンティティの形成がどう結びつくのか?

A・服飾やアクセサリを制作展示することで、女性たちも足を運ぶと考えた。

花・風の会(初)

立派なホテルはあるが、その交差点の角の空き地はゴミ箱みたいだ。都道の空



き地も草を刈り、清掃をして住民に喜ばれた。区が開放してくれた空き地をなんとかきれいにして花のある心やさしいまちづくりをしたい。先日は、中秋の名月を見る会を開き、子どもたちと虫の音も聞いた。地域の人に空き地の竜舌欄を教えられて、保護することになった。

今後「花咲かじいさん」にも協力を得て、また地域の人や会社にも賛同を得、

◇

Q・まちづくりとしては、行政に提案するだけでなく、さらに自分たちでも何かしていくべきではないか。

A・「飯田橋地域の開発を考える会」とも協力し、不要な樹木の剪定や土盛り、整地、花の苗や球根の植付けなどをしていくつもりだ。

子どもと一緒にデザインしよう会(初)

私たちは、日本大学建築学科の学生15名で、子どもに関わる環境デザインを研究し、子どもと共に創造していくことを目的とする。これまで児童館の七夕企画でTシャツを着て人間短冊になったり、SOBARTでは子どもによる団扇コンテスト、スタンプラリー作成などをした。

今回は、子どもと地域の関わりのきっかけづくりをテーマにする。千代田小学校、お茶の水小学校などとリンクする道路と公園を企画予定地として関係づくり

のワークショップを行う。具体的には、まち学習、地域の防災まち学習などを子どもといっしょにやる。また、街に出てマップをつくり、話し合ったり、子どもが考える未来のまちについてのコンテス



◇

Q・小学校の地域の町会や地域の人とも連絡をとってほしいと思うが……。

A・神田蕎麦の会やSOBARTの人たちと協力して地域とのコミュニケーションも図っていききたい。子どもを取り巻く環境は急速に変化しているが、大事なのは自分たちも子どもたちも楽しいということだと考えている。

まつりと自治研究会(初)

本業である宣伝の仕事のノウハウを使って神田の魅力を伝えたい。ホームページを開くために、その中身として地図や歴史的資料の紹介などを考えている。

内外の祭りを調査研究しているなかで「町会」に注目し、千代田区の地元組織の仕組みを調べてみたい。そして子どもたちの活動をサポートしたり、このまちづくりサポートのグループの手助けをしていきたい。結果は、Webページで紹介し、神田のまちのさらなる活性化についての試みを行っていく。

◇

Q・試みというのは具体的に何か？

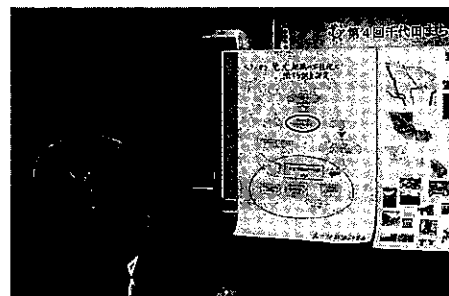
A・まず町会組織を中心にお祭りなど活性化の要因を町会長さんに尋ねる。それを元に、いろいろ提案する。

Q・千代田には「まちネット」というのがあがるが、そのサポートでも可能か？

A・もちろん、そこで内容をどれだけ魅力あるものにできるかだと思う。

Q・我々は神田の祭りの本を出版したが神田にはすごい数の祭りや町会があり、調査研究が大変だった。どこかに焦点を絞らないと無理だと思う。

Q・私も根津を中心にホームページも



開いたが、神田のまちのホームページを調べると文献の数も多いし、とても詳しい内容が出ている。そういうものと差別化し独自性をださないと……。また、町会の他に自主団体もあるのでやってみては？

A・まちづくりのお手伝いができるなら、ぜひ、やりたいと思う。

質疑応答・討議

司会：北沢 猛・副会長

・審査委員の第1次投票で、グループを助成に「賛成・中間・反対」の3つに分け、質疑応答・討議した。

(紙面の都合上、問題提起や議論の多いものを中心にして、一部を省略しました。〔 〕内は審査員名、肩書などは1ページ、敬称略)

花咲かじいさん

〔伊東〕都市の公共空間に花を植えるという活動。その努力は大切で、また評価されてもいるが、区全体の活動ではないし、必ずしも区民の総意で行われるわけでもない。都市のオープンスペースの利用方法としては疑問もある。

〔森〕毎回、活動がグレードアップして驚いたが、今回は少し弱い感じがした。日本の中心にある千代田区に全国の道府県の花を植えてもいいだろうが、県花はその県にあるから意味があるのではないかと。

A・千代田区の特性を発信したいという思いと、全国の県と花の情報を交換したいという思い、それに予算がないため県花の鉢を提供してもらえればと思った。

東京ロードランナーズ・クラブ

〔森〕まちづくりとは持続的な地域住民との活動で千代田区全体が住みやすくなること。前回出たランナーに必要な施設への提案もなく、イベント指向で、まちづくりから遠のいた気がする。もっと住民を巻き込んでほしい。

〔伊東〕健康・観光都市というのは重要なテーマなので、それを活かすまちづくりについて提案をしてはどうか。

〔平岩〕社会に対するメッセージもまちづくりの役割だと思う。イベントを通して何を働きかけたいのか明確にしてほしい。たとえば、エイズ・ウォーク、

環境・ウォークなどのように。

A・神田を巡るウォークの会などを継続して全国に広め、参加者の交流も図りたい。イベント色が強すぎるにせよ、居住者だけでなく来訪者も共にやるまちづくりの活動を目指している。

〔卯月〕まちづくりでは、日常的な活動がメイン目的で、それを補う手段がイベントだと思う。サポートの質を高めるようなイベントを開いてほしい。

江戸神田蕎麦の会

〔卯月〕前回の「蕎麦屋の危機はまちの危機」には共感した。その結果すばらしい活動をしたが、今回は、企画書に書かれたことで判断すると、むしろ麺類協同組合でやった方がいいと思う。

〔平岩〕同感。自分たちの会の自己資金でできることと、サポートの助成金でやるべきことをきっちり分けてほしい。今後も他のグループが応援してくれるようだし、組合でも充分やれると思う。

A・組合に打診はしている。最終的には組合を巻き込んで、長いスパンでやりたいが、そのためにも最初の3年間はまちづくりサポートでやるのが有効だと思う。

〔伊東〕前回の「いいまちはいい店をつくり、いい店はいいまちをつくる」というすばらしいコピーを大切に。蕎麦屋はコミュニティセンターという認識に立ち返って、ぜひやってほしい。

千代田活性化アート活動研究会

〔森〕神田蕎麦の会と共に活動した経験から、問題点などあれば教えてほしい。

A・お互いの距離を埋めるのに時間がかかり、実質的な準備期間が短く、相手の価値観を理解しきれないまま、本番に突入した。仕事をしながらの活動で、最初に役割分担も決められなかった。アートは一般には馴染みがうすい。いきおいでとにかく実物を見てもらった。双方ともなぜアートなのか、何のため、誰のためか改めて問い直し、スタートしたい。

〔平岩〕アートと蕎麦と、異質のものがぶつかり合う、そして異なる強みを持ち合うところによさがある。具体的なイベントなりのゴールにしぼって、それぞれ目標を設定すればよいのではないかと。

〔卯月〕去年の経験を踏まえ、プロの集団としてあまり犠牲を伴わずに、かつ継続的に千代田のまちづくりに、アートがどう関われるのか提案してほしい。

みんなの居場所提案会

〔平岩〕去年、若い力を応援したが、ことばではまちづくり、居場所提案だが結局、物づくり、コンテナをつくって終わったと感じた。今年こそと楽しみにしていたが新しい居場所が見えない。

A・小学校と商店街に、新しい居場所として活用できないかと注目している。そこで、高齢者や子どもたちなど地域の人たちとの交流を図りたい。

第4回千代田まちづくりサポート審査表

発表順	グループ名	活動企画内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える。	活動企画内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい。	社会的に意義ある活動だが、サポートの助成趣旨にはなじみにくいと考える。	今回の助成対象として推薦する。	申請額(万円)	助成金(万円)
1	番町まちづくり文学館	★★★★★★			●●●●●●●●	50	50
2	花咲かしいさん	★★★★★	◆◆		●●●●●●●●	50	50
3	東京回廊ドラゴンズ・クラブ		◆◆◆◆	▲▲▲	●●●●	30	
4	江戸神田蕎麦の会	★★★	◆◆◆	▲	●●●●	50	20
5	千代田活性化アート活動研究会 (旧神田SOBART実行委員会)	★★★★★★			●●●●●●●●	50	50
6	みんなの居場所提案会	★★★	◆◆◆	▲	●●●	18	
7	神田を出版する会	★	◆◆◆◆	▲▲▲▲	●●	45	
8	(NPO) 学習環境デザイン工房	★★★	◆◆◆◆		●●●●●●●●	50	30
9	秋葉屋ドットコム	★★★	◆◆◆	▲▲	●●●●●●●●	50	40
10	花風風の会	★★★	◆◆◆◆		●●●●●●●●	40	30
11	子どもと一緒にデザインしよう会	★★★★★	◆◆		●●●●●●●●	30	30
12	まつりと自治研究会		◆◆◆◆	▲▲▲	●●●●	50	

〔森〕私も2年目にもう少し期待したが、いかんせん話が整理されていない。問題意識としてはおもしろいのに、ターゲットを絞らないとだめだと思う。

〔渡辺〕居場所提案というテーマは好きだし、やってみたけど難しかったという結果でもいいのではないかな。そのプロセスでいろんな出会いがあると思う。ただ学生の論文で終わらず、もっと外へ出ていって活動してほしい。

神田を出版する会

〔卯月〕出版助成は調査や編集が8割ほど出来上がっているのを前提に費用を助成する。その前提をまずやってほしい。

A・企画書だけではだめなのか？

〔卯月〕厳しいようだが、これはまだ企画書にもなっていないと思う。公開審査会では、まず企画書の文章を見て判断する。それだけでは分からないから質疑応答をしている。企画書のための指導も公社が事前に行っているはずだ。

〔北沢〕企画の意味だけではなく、そのプロセスとやり方を考えてほしい。かな

り綿密なリサーチが必要で、じっくり準備時間をかけてやるべきだと思う。

〔森〕きちんとしたコミュニティや地道な暮らしがないまま、便利さだけで、外からどっと人が来るような状態は、まちにとって果してよいことか。まちづくりとして、その辺もよく考えてほしい。

〔伊東〕「住みたい、通いたい、楽しみたい」というキャッチフレーズがあったが、区民自身がそういう意気込みを持つのは大切だ。ただ、もう少し長いスパンで、仲間を募り、都市の構造に関わるまでじっくり構えてやれないかと思うが、どうだろう。

(NPO) 学習環境デザイン工房

〔森〕高齢者に昔遊びをという試みは1度では無理ではないか。また、不登校の子どもたちにはどう対処するのか。

A・もし1度で無理だったら、継続的にやっていく。不登校の子どもたちには、2001年4月からホームスクーラーとして自宅に出向いて学習支援をしている。

〔卯月〕この講習会でつくったものが子

どもたちにとっておもしろいかどうか疑問。スケジュールもかなり厳しいと思う。

秋葉屋ドットコム

〔伊東〕何かグッズができると、即、成果物とみなされるが、まちづくり活動はもう少し広がりしてほしいと思う。

〔北沢〕活動の目標が学生や町の人に広めていく方向だといっているのではないかな。

A・グッズは地元の学生につくらせる予定。秋葉原商店街の人たちに苦情を伺ったことから、秋葉原の土地と密着した新しい物をと考えた。

まつりと自治研究会

〔伊東〕様々な伝承としての祭り、文化人類学的な祭りの型と、千代田区の祭りの型から実際の都市の構造を浮かび上がらせるのではと、過大な期待をしている。「まちネット」支援だけでは不満だ。

A・まず町会のホームページをつくる。「まちネット」を広めるサポートや、地域を高めるまちづくりの役にたちたい。

総 評

審査会会長 卯月 盛夫



千代田まちづくりサポートもスタートしてすでに3年が経ち、先日は、めでたく修了証書を授与されたグループが3つ誕生した。これは、私たち審査員にとっても実に喜ばしいことで、これからの一層ユニークなまちづくり活動を大いに期待したい。このような卒業組が出たことで、第4回はあらためて初心に戻って審査するように心がけた。

さて今回の応募は、12グループ。そのうち3回目の応募が2グループ、2回目4グループ、初回6グループと初回が全体の半数を占めた。特に今回は、初回のグループに実力派が多かったような印象である。これまで企業やNPO、あるいは市

民活動としてかなり実績のあるグループが、新しい課題を持って、千代田区をフィールドに活動しようという企画が多かった。

これは、かなりインパクトが強かった。いわゆる企画力も実践力も有するプロが、新しい形の非営利活動を企画して、自ら積極的に実践していくところが、千代田区の地域性であり、強みである。2002年の成果が実に楽しみである。

もう一つの地域性は、やはり大学の存在である。今回も学生の応募があった。これまでも東京電機大学や日本大学の建築学科の学生が応募し、地域の人々といっしょになって活動してきたが、これは学生にとってきわめて貴重な体験である。かつてまちづくりサポートの活動をしていた学生のひとりが、やはりこのサポート活動から生まれたNPO法人に就職した。

また大学を卒業して独立しながらも、このサポート事業を手伝っている例もあり、ゆっくりではあるが、千代田のまちづくりも、すそ野を広げてきているような印象がある。

今回の審査会の経過をふまえて、ここで「公開審査会」の意味について確認しておきたい。審査会のやりとりの中で、委員が「こんな企画の方がよいのでは」とアドバイスすることがある。しかしこれは企画の変更をすれば助成する、という意味ではない。審査の原則は、やはり提出された企画書による判断であると、私は考えている。書類ではどうしても判断できない点について、随時応答することによって、書類での審査を補うのが「公開審査」の役割である。もちろん審査

会の中で、各委員が企画案の評価に際して、自らのまちづくりの考え方や進め方を披露することがあり、その役割も重要であることは認めるが、それは主たる目的ではない。したがって、応募される方々は、もっともっと企画書の重要性を考えていただきたい。そして企画書を書く前に、関係者でもっと議論をしてほしい。悩んだときにはもちろん相談に来てほしい。企画立案に際しての事前相談サポートは、すでに公社として実施している。そして今後は、3年修了したグループや経験豊かなグループの当事者からのアドバイス体制も整ってくる予定である。サポートの卒業生も現役生もみんな、入学前の新入生を迎え、支えたいものである。

番町まちづくり文学館

早いもので今度が3年目であるが、評価も高い結果となった。文芸地図ができるたびに着実に内容や活動が充実してきている。歴史の掘り起こしも広がりを持ち、文化人たちが生活した町のイメージが伝わってくるようだ。最終年となることもあり、総集編も期待しているが、次なるステップを考えながら進んで欲しい。目標は文学館をつくることとあるが、どういう文学館か、これまでにない構想を発表して欲しいものである。興味津々である。



(北沢 猛)

江戸神田蕎麦の会

今回の審査会では、やや厳しい意見のやりとりがあった。2回目となると期待も大きくなるのである。蕎麦地図は付近の見どころも記入され、なかなかの力作であったし、神田SOBARTのグループとの協働であった「そばとアート展」も話題豊富であった。これらをどう展開していくか、さらなる創意工夫を期待している。異分野の人たちとの出会いは新しい発想や活動を生むのであり、まさに蕎麦屋が文化交流の場であったという伝統を再生して欲しい。

(北沢 猛)

花咲かじいさん



「花づくりを通して人間性あふれるまちづくりをしたい」という思いを、豊かなアイデアをきめ細かな心配りある活動により実現していく姿には目を見張るものがあります。今年は町会・企業・学校が三位一体となり、街路・商店街・公開空地に花を植え・育てるシステムを研究すること。これが成果をあげれば、これまでの実績も加えると様々な地域で応用できるモデルとなり、全国に発信することができると思います。全国の県の花を集めてまちなみを飾るよりも、普遍性があるのではないのでしょうか。

(平岩千代子)

子どもと一緒にデザインしよう会

学生たちのグループですが、昨年度もボランティアで神田SOBARTの企画に参加し、小学校の子どもたちに「未来のそば」を描いてもらうコンテストや落書き大会を開催するなど、ユニークなアイデアと実行力が魅力です。地域の人々とパ

ートナーを組み、学校の授業でワークショップも行いたいとのことですが、千代田まちづくりサポートには、学校との連携で実績をあげているいくつかのグループがあります。そうした先輩方にも相談し、アドバイスを頂いてみてはいかがでしょうか。

(平岩千代子)

東京ロードランナーズ・クラブ



企画書を見る限り、区外部のメンバーによるイベントが主と思われ、助成には至らなかった。しかし、グループの力、企画力、発進力の大きさにはうならされ、このグループなら他からの助成が得られるとの意見も出た。ともかく、世界一安心安全な皇居一周ジョギングを核に健康集客都市千代田という切り口はきわめて魅力的かつ先進的であり、これからもサポートとの連携・協力を維持し、さらに、まちづくりへと広げてほしい。

(森 まゆみ)

千代田活性化アート活動研究会

神田SOBARTでのめざましい成果を継承して、東京の都心であり、昼間人口の多い千代田区という特性を活かし、まちでのアートで何ができるか、斬新に模索してほしい。そのためには無理なイベントをしなくても一年間、研究を積み重ねてもよいのでは、との意見も出された。グループには若く、アイデアに富む活動的な人材が多いとの印象を受け、果敢に古いまちに飛び込み、ネットワークを作りつつ、まちに風穴をあけることも期待される。

(森 まゆみ)

神田を出版する会

都心居住のためのアメニティー・データベースを神田の人々の手で作るという。まちづくり手法としてどう進めたらいいかについて助言を望んでもいる。それが出版助成の、支援の方法論の議論に終始してしまったのは、いかにも残念である。神田倶楽部、神田学会などの膨大な累積成果の活用、類似活動とのリンク、データサンプリングのワークショップ的手法など、助成側から出された多くの示唆に柔軟に対応して欲しかった。示唆は助言だったはずである。建て直しを期待する。

(伊藤 敏雄)



みんなの居場所提案会

大学の都心回帰現象が始まっている。今、学生の居場所についての、学生による調査研究をすることの意義は大きい。調査・分析・企画・ワークショップをしよう。かつてあった、運河、道端でのおしゃべり、お茶のみ、くつろぎの「場」を探し、マップも作りたいとしている。是非継続していただきたいまちづくり活動である。ストリートファニチャーの提案も欲しい。プレゼンテーションがコンテナプラントに拘りすぎたのが評価を低くしている。また挑戦してほしい。

(伊藤 敏雄)

(NPO) 学習環境デザイン工房



高齢者と子どもの学習をITで結ぶという提案が、時代の先端にあるだけでなく、千代田の特性にぴったり合っている。企画も具体的で完成度が高い上に、様々な発展性をもっている。ITは、世代を越えたコミュニケーションツールであることを、教育関係者だけでなく、広範な人々に知ってもらいたいと、私自身は大きく期待している。昔話や昔の遊びなど、高齢者から子どもへの発信だけでなく、子どもがおじいさんたちに聞きたいことなども盛り込むなど、双方向の対話も工夫していただきたい。

(渡辺 滋)

まつりと自治研究会

初参加でもあり、説明内容がまちづくりサポートの趣旨からやや離れているのでは、という印象があった。しかし、町

会のホームページ立ち上げを支援するだけでなく、そうした地域とのやりとりの中で、町会の歴史や個性を関係者で再確認していく作業を盛り込んでいくことは、まちづくりのあり方の一つだと思う。他のまちづくりサポート事業を、IT分野でサポートする試みは、将来の発展の可能性も期待できるので、大変楽しみにしている。

(渡辺 滋)

秋葉屋ドットコム



秋葉原といえば、電気製品・コンピュータ関連製品など完成された商品が売られており、集まる人たちも男性中心に固定化しているイメージがあります。しかし、秋葉原にある廃材となるような商品やパーツに目をつけ、新しい商品開発をし、女性や広い範囲の人がもっと興味を持てる秋葉原にしたいという面白い発想だと思いました。これを現実商品化し、それが千代田区の「おみやげ」となることを期待します。

(田畑 秀二)

花・風の会

公有休眠空地利用をきっかけとしているが、一般的に言われる「美化推進運動」であるように見えます。しかし、都市計画拡張事業の場所で行うのが「みそ」だと思います。近隣には、先人である「花咲かじいさん」「飯田橋地域の開発を考える会」があり、交流も持っているようなので、より一層の広がりを持ち「面」へと発展することを期待します。

(田畑 秀二)

(財)千代田区街づくり推進公社賛助会員一覧 (法人100社・個人65名 計165) 2001年10月1日現在

*この事業は下記の法人会員と個人会員の会費で運営されています(個人会員は省略させていただきます)

〈保険関係〉
あいおい損害保険(株)
太陽生命保険相互会社
日本興亜損害保険(株)

〈金融関係〉
(株)あさひ銀行
興産信用金庫
(株)三和銀行
芝信用金庫
太陽信用金庫神田支店
(株)大和銀行
(株)東京都民銀行神田支店
(株)東京三菱銀行
農林中央金庫
(株)東日本銀行
安田信託銀行(株)
(株)わかしお銀行本店営業部

〈建築・土木関係〉
エルゴテック(株)
大木建設(株)
(株)大林組東京本社
大林道路(株)東京支店
鹿島建設(株)東京支店
鹿島道路(株)
(株)久保工
(株)熊谷組東京支店
古久根建設(株)
佐藤工業(株)

三機工業(株)
清水建設(株)東京支店地域営業部
(株)銭高組東京支社
大末建設(株)
大成建設(株)
ダイダ(株)東京本社
高砂熱学工業(株)東京本店
(株)竹中工務店
中央建設(株)
鉄建建設(株)
東京舗装工業(株)関東第一支店
東洋建設(株)建築事業本部
常盤工業(株)
戸田建設(株)東京支店
飛島建設(株)東京土木支店
飛島道路(株)東京支店
(株)ナカノコーポレーション
長野建設(株)東京支店
西松建設(株)
日東大都工業(株)
(株)間組東京支店
前田建設工業(株)
真柄建設(株)東京支店
(株)増岡組東京支店
三井建設(株)

〈不動産関係〉
(株)お茶の水スクエア
協永不動産(株)
(株)共立エステート

住友不動産(株)
(株)大京
大日本企業(株)
三井不動産(株)
三菱地所(株)
森トラスト(株)
安田不動産(株)

〈建設設計〉
(株)アーバン・ウイング
(株)アーバン・トラフィックエンジニアリング(株)イサミヤ
(株)アール・アイ・エー
(株)アイテック計画
(株)アルセッド建築研究所
(株)ADプロジェクト
エヌティティ都市開発(株)
(株)エルイー創造研究所
(株)環境開発研究所
協同組合 都市設計連合
(株)楠山設計
五洋建設(株)
太平工業(株)東京支店
(株)都市映像研究室
(株)都市環境計画研究所
日本橋興業(株)
パシフィックコンサルタンツ(株)
(株)日立建設設計
(株)ポリテック・エイディディ
本州ビル・メインテナンス(株)
(株)松田平田設計

マト設計・コンサル(株)
八重洲コンサルタント(株)
(株)山下設計
(株)ラウム計画設計研究所

〈ビル管理〉
鹿島建物総合管理(株)
東京美化(株)

〈広告代理業〉
(株)イサミヤ

〈販売・興業関係〉
東宝(株)

〈電機・通信関係〉
三洋電機(株)

〈その他〉
秋葉原商店街振興組合
秋葉原中央通商店街振興組合
秋葉原西口商店街振興組合
(株)エコプラン
神保町一丁目南部地区市街地再開発組合
東京高速道路(株)
(社)東京都建築士事務所協会
(株)東京読売サービス
(株)明正社
ヨシモトポール(株)